

沼津高専だより

第121号

令和4年7月8日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <https://www.numazu-ct.ac.jp/>



入学式



原付安全運転講習会



寮 祭



救命講習会

目次

☆新年度にあたって（年度方針等）

柔軟な頭脳を大切に	……………	学校長	岡田 哲男	……	3
足元を確かめ、前に進む	……………	副校長（総務主事）	稲津 晃司	……	3
正しい勉強法とは	……………	校長補佐（教務主事）	芹澤 弘秀	……	4
沼津高専の学生に期待したいこと	……………	校長補佐（学生主事）	佐藤 誠	……	4
新しい体制でのスタート	……………	校長補佐（寮務主事）	永禮 哲生	……	5
研究活動支援と地域連携活動の紹介	……………	校長補佐（研究主事）	高野 明夫	……	5
令和4年度のはじめにあたり	……………	校長補佐（専攻科長）	大庭 勝久	……	6
合理的配慮取り組みの2年目	……………	学生生活支援室長	小林美恵子	……	6
チャレンジ	……………	機械工学科長	新富 雅仁	……	7
電気電子工学科の3つの強みを活かして	……………	電気電子工学科長	大津 孝佳	……	7
心身ともに成長するこの5年間で大切に	……………	電子制御工学科長	鈴木 静男	……	8
「頭が良い」とは何だろうか？	……………	制御情報工学科長	宮下 真信	……	8
新年度を迎えて	……………	物質工学科長	竹口 昌之	……	9
世の期待にこたえるために	……………	教養科長	小村 宏史	……	9

☆人事異動について

令和4年度 人事異動	……………	10
令和4年度 校務分掌	……………	11
令和4年度 クラブ・同好会顧問教員	……………	12

☆着任挨拶

25年ぶりの静岡県民	……………	制御情報工学科	矢入 聡	……	13
目指す姿	……………	制御情報工学科	金子 裕哉	……	13
生徒から学生へ	……………	教養科	川口 喜弘	……	14
沼津高専で哲学に携わるということ	……………	教養科	太田 匡洋	……	14
工業高専で1ヶ月過ごして	……………	教養科	榎本 翔太	……	15
Think Globally, Act Locally.	……………	教養科	前田 隆子	……	15

☆新入生から（入学にあたり）

今年1年でやりたいこと	……………	電子制御工学科1年	大澤宗太郎	……	16
高専でしか味わえないこと	……………	制御情報工学科1年	楠 和徳	……	16
高専に入学して	……………	物質工学科1年	勝又静里夏	……	16

☆留学生から

静岡に戻ってきました。	……………	物質工学科3年	ムンフ オド サイン オチル	……	17
-------------	-------	---------	----------------	----	----

☆寮生会活動について

今年度の抱負	……………	制御情報工学科4年 寮長	武 柚希	……	17
--------	-------	--------------	------	----	----

☆教育後援会から

教育後援会の役割	……………	教育後援会会長	石井 征	……	18
----------	-------	---------	------	----	----

☆三つのポリシー

☆お知らせ

令和4年度沼津高専一日体験入学のお知らせ	……………	22
令和4年度（8月～3月）行事予定表	……………	23

新年度にあたって (年度方針等)



柔軟な頭脳を大切に

学校長
岡田 哲男

中村校長の後任として4月に着任しました。3月まで東京工業大学の副学長、理学院の教授を務めていました。専門は分析化学で、近年は主に凍結系(氷や凍った溶液)の研究をしています。遊び心から氷の研究を始めたのですが、始めてみると面白く、すっかりはまってしまいました。凍結系には興味深い現象がたくさんあり、科学的には良くわかっていないものも少なくありません。たとえば、スケートが滑る機構は、十分に解明されていないものの一つです。水分子の動きが関係している、ナノ液相が潤滑油的な働きをしているなどの機構が最近提案されていますが、完全なコンセンサスには至っていません。

話は変わりますが、30代で始めた研究がノーベル賞の受賞対象になることが多いという調査があります。たとえば、吉野彰先生がリチウムイオン電池の研究を始めたのが33歳頃、眞鍋淑郎先生が大気海洋結合モデルを提案したのが38歳の頃です。自然科学の研究にはある程度経験が必要です。一方で、前例や既存の考え方にとらわれ

ない柔軟な頭脳がひらめきをもたらします。この二つがバランスする年代が30代なのかもしれません。

新しい発見をするにも柔らかい頭が必要です。常識にとらわれていると、これは偶然起こった間違いと思い込み、発見のチャンスを逃してしまうかもしれません。氷に話を戻します。ムペンバ現象(効果)と呼ばれているものがあります。これはお湯の方が水よりも先に凍るという現象で、タンザニアの中学生だったムペンバが発見したとされています。彼は、調理実習でアイスクリームミックスを熱のまま冷凍庫に入れておいたところ、冷めたものより先に凍ったことに気づきました。彼は後に大学の教員と一緒にこの現象に関する論文を書いています。10数年前NHKが取り上げたところ、「そんなばかな」と言下に否定した物理学者もいたとのこと。この現象の再現性は低いものの、条件によっては実際に起こることがわかっており、今も検証が続けられています。ほとんどの人が見逃がしそうな、非常識とも思える現象に中学生が気づき、科学の世界に一石を投じたのです。

工学分野でも経験は重要ですが、経験が真実を覆い隠してしまうこともあるでしょう。学生の皆さんは既成概念や常識などにとらわれず、素直にものを見ることを心がけてください。意外なところに本質的なもの、時には大発見が隠れているかもしれません。



足元を確かめ、前に進む

副校長(総務主事)
稲津 晃司

新型コロナウイルス感染拡大は、種々の数値データでは依然として終息したといえない状況が続いていますが、経済活動の回復を主眼とした社会の動きと同じく、本校も今年度はできるだけ制限を緩和して学生みなさんに学校生活を送ってもらう試みを行っています。マスクの着用、手指の消毒、密の回避といった基本対策を始めとする「足元」への注意は常に必要で、窮屈さは残りますが、学生みなさんが友人や教職員と会して学ぶことでより良く能力を修得ができることを大いに期待しています。新型コロナウイルス感染拡大への懸念が残る中、国際情勢の不安定さが加わり、「当たり前のこと」がみるみる変わる社会の中、本校での学修機会を大切にしてほしいとも思います。

一方で、制約が大きかった中での学修の影響で、学習習慣、基本的学修内容の理解や学校生活でのコミュニケーションといった「足元」に不安がある学生が散見されます。遠隔教育で習得したTeamsやMoodleの利用他

ICT活用を継続しながら、焦らずに、足元を確かめながら学びを前へ進め、成長してほしいと思います。今年度は高専制度発足と本校設立から60年の節目を迎えることもあり、イベントなど関連する案内をしていきます。学生みなさんには積極的に参加してもらい、技術者としての能力涵養だけでなく、高専生として一層のプライドをもち、元気さも増進してほしいと思います。

このような学生みなさんの学びと成長を支える教育を充実するように本校も足元を確かめ、前に進みます。各学生の成績をはじめとする種々のデータの収集と分析はこれまでも行ってきましたが、それぞれの分析結果をより広く共有したり、検討したりすることで、データに基づいた効果的な教育改善と学校運営、教学マネジメントを推進します。多種多様なデータが必要であったり、その取り扱いに情報セキュリティ上の十分な注意が必要であったりしますので、仕組みとして定着して効果を上げることは、容易ではありません。足元を固めながら、本校学生みなさんが予測困難な時代でも活躍できる、自律的な技術者となる将来に向けて前に進めていきます。調査や分析では学生みなさんにも保護者みなさんにもお願いすることがあるかもしれません。その際には協力をお願いします。本校は、これからますます求められていく「学修者本位の教育」を実現すべく、学校全体での施策をひとつひとつ進めていきます。



正しい勉強法とは

校長補佐（教務主事）
芹澤 弘 秀

今年度より教務主事を務めます芹澤です。よろしくお願いいたします。まず、対面授業の安全な実施を継続していくため、学生の皆さんにはこれまでと同様に感染防止対策（マスク着用・消毒・換気等）の徹底をお願いします。また、感染が急拡大した場合は遠隔授業への移行となりますが、登校しての学校生活が皆さんにとってとても大切なものであることは十分に理解しています。可能な限り対面授業を継続したいと考えていますので、状況が改善しても気を抜かず感染防止対策の徹底をお願いします。

さて、これまでの新型コロナ感染拡大に伴う授業形態等の変更により、学習環境が大きく変化し、新環境への対応やそのストレス等が原因で思うように勉強が進まなかった（その結果、学力が定着しなかった）人も多いと思います。幸い、昨年度からは9月を除き対面授業が実施でき、以前の学習環境に戻つつあります。今後も対面中心の学習が継続できると思いますが、コロナ禍での学習環境激変の経験を通して、なぜ勉強をするのかを今一度考えてみることはとても意味のあることです。勉強

の目的は本来、学力の定着および向上を図ることです。具体的には対象となる学問分野に関する知識と技能を身につけ、原理法則等の真理を理解し、それらを応用できるようになることです。そのためには個人差はあるにせよ、学習に十分な時間をかける必要があります。受験競争の影響なのか「点数・順位の向上」が目的となり、即効的かつ高リスクな方法（例えば過去問を解くだけ、山を張る等）を安易に選択する人が多いことを長い教員生活で実感しています。その結果、低学年での知識・技能の修得不足によって高学年での成績不振および勉強への興味喪失に陥ることも少なくありません。知識定着の基本は覚えることですが、一夜漬の勉強では時間が経つと消えてしまう短期記憶となるだけです。何度も繰り返すことで重要な情報と判断され、脳内に回路（ネットワーク）が形成されて長期記憶となります。また、理解して応用できるようになることも脳内での回路形成が重要となり、習い事や部活動などで上達するというのはまさにこの回路形成によるものです。回路形成には物質の移動を伴うため、筋肉の発達と同様に時間を要します（一夜にして強靱な肉体になれないのと同様です）。結局のところ、正しい勉強法とは十分に時間をかけて反復練習することに尽きます。今後、成績表が届いた際には、点数や順位の変化に一喜一憂するのではなく、勉強法との因果関係を把握するための資料として活用することで、その改善につなげてほしいと願っています。



沼津高専の学生に期待したいこと

校長補佐（学生主事）
佐藤 誠

今年度より学生主事を務めることになりました佐藤誠です。よろしくお願いいたします。コロナの感染がなかなか収束に至らない状況ですが、今年度の学生指導方針としては学生たちの活気を取り戻すために、可能な限り制約のない学校生活の実現を目指していきたいと考えております。そのためには、学生一人一人が感染予防に対する意識を高くもって日々の生活を送ってほしいと思います。また、学内美化をはじめとして、モラルに対する意識の向上も図っていきたくて考えております。

さて、学生の皆さんにはつねに「沼津高専」というブランド名がついて回ります。つまり、世間からは一個人としてではなく、沼津高専の学生という集合体としてみられているということです。それは本校に在籍している限り、ぬぐい去ることができないことですし、卒業後もついてまわることかもしれません。この「沼津高専」というブランドの価値を決めているのは学生一人一人の行動

だと思っています。たった一人の行動が常に「沼津高専」というブランドの評価対象となることを理解してほしいと考えています。一人の行動が「沼津高専」というブランドの価値を高めることもあれば、逆に一人の行動がブランドの価値を落とすこともあるということです。私は学生の皆さんにこの現実を前向きにとらえてほしいと思っています。一人一人が自分の得意分野でがんばることで「沼津高専」のブランド価値はどんどん高まっていくと思います。そのためにも学生の皆さんにはいろいろな分野でチャレンジをしてほしいと思います。課外活動、コンテストへの参加、学修成果の学会発表、ボランティア活動などいろいろなチャレンジができると思います。はじめはチャレンジしても失敗することがあるでしょう。でもその失敗は必ず次の成功への糧になると思います。学生の皆さんの様々なチャレンジを学校全体で応援していきたいと思っています。

学生たちのチャレンジには私たち教職員のみならず、保護者の皆様のご支援と御協力が不可欠です。そのためには、保護者の皆様と情報を共有しながら学生支援をしていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



新しい体制での スタート

校長補佐（寮務主事）
永 禮 哲 生

今年度校長補佐（寮務主事）を務めることになりました永禮と申します。どうぞよろしくお願い致します。本年度も昨年度に引き続きコロナウイルスの感染予防策を講じながらの開寮となり定員は昨年と同様406名です。過去2年コロナ禍で様々な対応をせまられ、寮生はもとより保護者の方にも大変なご苦勞をおかけしました。そのおかげもあり、寮内でクラスターが疑われるような感染者はありませんでした。最大定員から約170名を減じた寮運営の中で、上級生はもとより2年生や、1年生においても自宅通学が可能な方には入寮辞退をお願いしている状況は昨年と変わりません。

今年度になっても基本的なコロナウイルスの感染対策に変更はありませんが、過去2年の経験を踏まえ感染対策を行いつつも、寮の行事や寮生同士の学習支援などを新しい生活様式の中で実施できるよう運営してまいります。

昨年度は寮監が不在で、教員が平日の代行業務、休祝日の日直業務を行い寮生・保護者の皆様にもご不便をおかけしましたが、本年度は前職が伊東商業高校の校長であった川口喜弘先生に寮監へ就任いただきました。本稿を執筆している現在、4月から1カ月半ほどたちましたが、すでに高い指導力を発揮頂き寮生の指導・相談に対

応いただいております。この他に寮の運営を支援いただく教員として、寮務主事補に駒先生、大沼先生、大久保先生、青山先生、寮務委員に前田隆子先生、鈴木尚人先生、高矢先生、牛丸先生、矢入先生が就任されました。

寮の運営は寮務主事・寮監・主事補・委員・事務職員が支援しますが、運営の主体は寮生会であると私は考えております。今年度の寮生会の三役に寮長に制御情報工学科4年の武袖希さん、副寮長に電気電子工学科4年の松本由紘さんと制御情報工学科4年の神谷隆葵さんが就任しました。下に報告する寮祭を始め、寮の運営企画を他の役員と共に企画実施する指導力や行動力をすでに存分に発揮しています。三役のみならず寮生会の役員は生活しやすい寮の運営の為に日夜献身的に働いてくれています。寮生会を支援し協力しながらより良い寮となるよう微力ながら力添えできればと考えております。

5月14日(土)には寮生のみ参加の前日祭、5月15日(日)に漆峰祭(寮祭)を開催致しました。心配されていた天候も、前日祭の準備開始時間直前に雨がやみ、両日ともに晴天の中で実施できました。本年度は事前に登録していただいた1年生の保護者だけでしたが、保護者の方にも参加いただくことが出来ました。感染対策・駐車場の管理など寮生自身が創意工夫し、コロナ禍の生活様式に対応しながらも学外からの来場者が安全に参加いただけたと思います。限られた時間や人員、様々な規制の中で寮の役員を始めとする寮生全員の力で寮祭を成功させられました。こうした経験を糧に10月に開催される高専祭や、来年度の寮祭を成功させてくれるものと信じております。



研究活動支援と地域 連携活動の紹介

校長補佐（研究主事）
高 野 明 夫

研究主事は、教員の研究支援に関する業務を強化するために、昨年度から新設されました。昨年度に引き続き、地域創生テクノセンター長を兼務しております。初めに、本年度の関係委員会のメンバーを紹介いたします。研究委員会には、副主事として住吉光介教授、委員として横山直幸准教授と藁科知之准教授が任命されています。地域創生テクノセンター運営委員会は、部門長として熊谷雅美教授と前田篤志助教、委員として大澤友克准教授、横山直幸准教授、藁科知之准教授、鈴木正樹准教授で構成されています。

研究活動支援と地域連携活動には、科学研究費補助金(科研費)の獲得支援、共同研究と受託研究の推進、知的財産の管理、研究・技術シーズ集の発行、校長リーダー

シップ経費の活用、学校としての競争的資金の獲得、テクノフォーラムなどのイベントの開催、公開講座などがあります。ここでは、科研費採択支援、共同・受託研究の推進、学校としての競争的資金の獲得について紹介させていただきます。

まず科研費についてです。科研費は教員の研究活動を後押しする重要な資金となっています。近年の採択件数は継続と新規を合わせて15件から20件の間で推移し、最近伸び悩んでいましたが、それでも新規採択件数が令和3年度1件だったものが令和4年度には3件へと回復しはじめています。本校の場合、教員の申請率が採択率に相関しているため、校長リーダーシップ経費等の活用を通じて教員に申請を促し、採択件数の増加につなげていきたいと思っております。

次に共同・受託研究についてです。共同・受託研究の件数は、合わせて20数件で推移しています。受入額は令和2年度が1225万円でしたが、令和3年度は1885万円となり、660万円ほど増加いたしました。新型コロナの影響がまだまだ懸念されますが、広報活動を通じて、今後も件数および受け入れ額の増加を図っていきたく思います。

ます。

最後に、学校としての外部資金の獲得についてです。今年度も科学技術振興機構の「ジュニアドクター育成塾」という企画に応募いたしました。これは学校の設備等を利用して研究力のある小中学生を発掘育成するというものですが、認められますと資金を学校の設備更新等に役

立てることができます。この他にも、外部資金獲得の募集があれば、随時検討したいと思います。

今後も、皆様のご理解とご支援をいただきながら、研究支援・地域連携活動を進めていきたいと思っております。よろしくお願いたします。



令和4年度のはじめに あたり

校長補佐（専攻科長）
大庭 勝久

今年度から芳野前専攻科長より専攻科長を引き継ぎました大庭です。今年度の専攻科は、環境エネルギー工学コース長の山崎准教授、新機能材料工学コース長の金准教授、医療福祉機器開発工学コース長の山之内准教授、専攻科運営委員の芳野教授とともに5名体制で運営します。どうぞよろしくお願い致します。

専攻科生については、1年生が31名（環境エネルギー工学コース10名、新機能材料工学コース11名、医療福祉機器開発工学コース10名）、2年生が31名（環境エネルギー工学コース10名、新機能材料工学コース10名、医療福祉機器開発工学コース11名）の計62名が在籍しています。専攻科生の進路については、昨年度の修了者24名に対して、就職が12名、進学が11名、その他が1名となっています。現在の2年生は、就職希望が20名、大学院への進学希望が11名です。この原稿の執筆時において、就職希望の内10名が希望する企業より内々定を頂いています。

沼津高専は、豊橋技術科学大学との連携教育プログラムに参画しています。このプログラムは、課題解決力と技術の社会実装力に長けた人材の育成を目的としており、

同大学と協働する2年間の教育プログラムとなっています。なお、プログラム修了者には、所属高専専攻科の修了資格と同大学の卒業資格の両方が授与されます。今年度、このプログラムに1名が参加しています。本校からは初めてとなりますが、関係部署・教員が協力して円滑な学修活動を実施できるよう取り組んでいます。

専攻科には全専攻科生から構成される自治会が存在します。その活動の一つとして下級生への学習支援があります。過去には、本科の定期試験直前に「専攻科生による勉強部屋」を開催していましたが、現在は、学習サポートセンターにおける活動の中で、サポートスタッフとして活動しています。今年度も専攻科自治会長を中心に支援活動の体制を整えていきたいと考えています。学生同士で学び合うピアサポートの中核としての専攻科生に期待しています。

最後になりますが、本校専攻科は昨年度に引き続き、日本技術者教育認定機構JABEEによる本科4、5年および専攻科の教育課程である総合システム工学プログラムの継続審査を受審しています。本校の技術者教育プログラムが国際的な技術者教育の基準に適合しているか審査されます。今年度は専攻科コース実験において新規テーマの準備を進めていますが、今後も継続的な教育・学修環境の改善を図り、専攻科生がそれぞれの目標とする技術者像を持って有意義な学修ができるよう努力して参ります。

今後ともご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



合理的配慮取り組みの 2年目

学生生活支援室長
小林 美恵子

合理的配慮、という言葉は皆様の中にどのくらい浸透したでしょうか。平成28年からスタートした障害者差別解消法には「障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することが求められる」という定めがあり、この対応を企業や学校等が用意すべき合理的な配慮、すなわち合理的配慮と称します。この配慮の程度は合理的と言える「重

すぎない範囲」と記されていますが、「重すぎる負担があるときでも、障害のある人に、なぜ負担が重すぎるのかを説明し、別のやり方を提案することも含め、話し合い、理解を得る」ようにする努力義務が課されています（内閣府リーフレットより抜粋）。

すでに社会全体に実施が義務づけられていますが、令和4年現在、全国50校を超える高等専門学校でも、対応が進んでいる所は多いとは言えません。沼津高専では、令和2年度から専門職の指導を受けるなど比較的早い段階から準備を始め、令和3年度から本格的に着手、今年2年目に入りました。学生の持つ特性や症状、困りごとは多岐にわたりますが、まずは学生や保護者の皆様から必要な声を寄せていただきやすい窓口づくりが一つの目標です。時には出身中学校の先生方とも連携を図りつつ、入学前の段階から相談受付を開始しています。

学校側の対応も、それぞれのケースごとに主事・学科長等関係教員が話し合いの場を持ち、「バリアを取り除くため」の有効な配慮方法を協議し、人員・時間・財源等限りのある中で「合理的」と言えるぎりぎりのところまで検討を重ねております。対象学生へ提供する配慮が、一般学生との関係上、公正性を保てるように、慎重なプロセスを用意しています。まだまだケースによっては立ち往生するようなことがあります。学生の多様性に応えることが出来るよう、修正に修正を重ねながら望まし

い「合理的な」配慮方法を模索中です。

すべての学生が学びの機会においてフラットな立ち位置を得られるように、そしてそのような学校生活を通して多様性を確保することの意義を理解し、将来配慮をする側としてもされる側としても、多様性社会を当然のこととして支える一人になってくれるよう、期待してやみません。今年もどうぞ支援室へのご協力をよろしくお願いいたします。



チャレンジ

機械工学科長
新 富 雅 仁

一昨年度より機械工学科の学科長を務めております新富です。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

本年度も機械工学科に40名の新入生を迎え入れることができ、大変うれしく思っています。新型コロナウイルス感染症の影響が出始めて丸2年が過ぎました。本年度も引き続きある程度の制約を受けながらにはなりますが、いろいろなことにチャレンジして学校生活を大いに楽しんでもらえればと思います。

さて、2年前に突然始まったオンライン授業では、学生のみなさんや我々も大変苦労しましたが、実施のためのシステムは、授業の実施以外でも有効であることがわかり、いまでは当たり前前のツールとして利用しています。機械工学科では、保護者面談や学科説明会などにも利用

しており、これまでは遠方で来校が難しかった保護者の皆様にもオンラインで参加頂くことができるようになりました。また、学生向けのキャリア教育におきましても、物理的な距離に関係なくオンラインでの講演をお願いできるようになりました。もちろん対面することの良さは代えがたいものがありますが、引き続きうまく活用できればと考えています。

本年度は、M1渡邊（前田篤志）、M2芳賀（鈴木尚人）、M3金、M4村松、M5三谷の各教員が担任を務めます（カッコ内は機械工学科所属の副担任）。また、就職指導には山中があたっております（進学指導はM5担任が担当）。勉強のこと、生活のこと、進路のことなどどんなことでも構いませんので、上記教員にかぎらず遠慮なく相談してください。

昨年度末で定年退職されました小林隆志教員は、国立高専機構の特命教授としてバンコク市内にあるタイ高専へ出向き、新たなチャレンジを開始されました。私もチャレンジする気持ちを忘れずに皆さんとより良い機械工学科を目指したいと思います。ご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



電気電子工学科の3つの強みを活かして

電気電子工学科長
大 津 孝 佳

電気電子工学科長の大津孝佳です。電気電子工学科は教員11名、技術職員1名、学生200名からなる学科です。1年生副担任小村元憲教員、2年生副担任眞鍋保彦教員、3年生担任大澤友克教員、4年生担任山之内亘教員、5年生担任西村賢治教員です。更に、研究主事高野明夫教員、学生主事補野毛悟教員、技術支援原田龍一職員、また、就職指導教員を小村元憲教員と大津孝佳教員の2名体制とし、全員が一丸となって、Society 5.0を担う未来産業人材育成を目指します。

学生達が担う未来社会では、電気自動車の自動運転交通システム、太陽光発電などを含む次世代電力供給システム、ドローンを始めとする運送システムなど、電力と

通信のスキルが求められます。電気電子工学科は、その基礎となる電気磁気学・電気電子回路から電気材料、電力工学などの知識とスキル、更に、通信やプログラミングなどの制御技術を融合させ、未来の社会システムを担う学科です。特に、電気自動車の高電圧化と自動運転技術、ビル設備の空調・エレベータの遠隔制御やスマート保全など、社会全体の高電圧化と情報化が進み、電気電子工学科への期待が高まっています。本学科は第2種電気主任技術者認定学科であり、多くの企業からの求人があります。また、約半分の学生は大学や専攻科に進学しています。

その為、基礎学力のみならず、専門技術力の向上を目的とし、3年生の「社会と技術」ではTRIZ発想法・ロボット製作・回路シミュレーションを学ぶ授業、4年生の「PBL型授業」では半導体材料、情報セキュリティー、プログラミングについての新たな実験実習課題をスタートさせました。

2022年度も電気電子工学科の3つの強みを活かして行きます。

1つめは、普及型教育の実践として、基礎学力の充実を目指した「Eスタ」です。上級生が企画・立案・実施し、下級生に教えて学ぶ中での成長もこのプロジェクトの良さです。

2つめは、強化型教育の実践として、3年生「社会と技術」、4年生「PBL」、5年生「卒業研究」と繋ぎ、各教員の専門技術教育、情報セキュリティー教育、プログラ

ム教育、知的財産教育、協働教育などにより、Society5.0社会に必要な社会システムを担う人材教育を目指します。

3つめは、地域との連携教育です。富士山や駿河湾、自動車産業など地域特性を活かし、出前授業やKV-BIKE(電池自転車)・環境エネルギー教育など、地域の幼・小・中学校との連携を行っています。

2022年度も宜しく願いいたします。



心身ともに成長する この5年間で大切に

電子制御工学科長
鈴木 静 男

本年度、学科長を拝命しました。どうぞよろしく願いいたします。新緑の輝く季節となりました。沼津高専キャンパスは新入生を迎え活気に満ちています。この紙面をお借りして令和4年度の本学科の組織や教育等についてお伝えします。

1年の担任は佐藤崇徳教授、副担任は鄭教授、2年の担任は榎本助教、副担任は川上教授、3年の担任は香川助教、4年の担任は遠山教授、5年の担任は青木准教授です。進学担当は5年担任が行い、就職担当は熊谷教授です。本学科の中心的科目・電子機械設計製作は牛丸教授が担当します。教員11名が協力し、学生の活動と生活を支えます。

1年生は、工学技術セミナーで毎週各教員の話聞き

ます。これにより本学科の全体像や各教員の研究内容が概観できます。2年生は工学実験で機械実習教育が実施されます。安全第一で身だしなみや体調の確認と気持ちの集中を図るため「気をつけ！右へならえ！番号！」というような点呼が代々行われています。この点呼を覚えている卒業生は多いです。3年生は受講科目数が多く専門科目の割合も増えます。高校と異なるところは、この年代を進学や就職活動ではなく長いスパンでやりたいことに取り組めることです。4年生は電子機械設計製作が1年間通して行われます。多くの学生が高専時代に力を入れたこととして就職と進学の応募書類にこの経験を記します。5年生は卒業に向けて大切な一年で進路先を決定します。現在までの状況は、進学希望者が24名、内専攻科推薦受験が9名、就職希望者は13名です。

高専5年間は、人生で最も心身ともに成長する時期です。知的なモノづくりを広げるための活動とそれを支える日々の生活について、学生の皆さんと本学科スタッフは今後も共に考え続けます。今年度も保護者皆様のご支援とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



「頭が良い」とは 何だろうか？

制御情報工学科長
宮下 真 信

昨年度に引き続き、学科長を務めることになりました。本年度も学科運営にご協力をお願いいたします。本年度は、新たに准教授として矢入聡先生が仙台高専から移籍し、助教として金子裕哉先生が企業の研究所から就任されました。また、非常勤講師として南イリノイ大学出身の井原洋一郎先生に技術英語をご教授いただくことになりました。語学を学ぶことはその言語を母国語とする人達の文化を知ることであり、グローバル化とは異文化を理解し受け入れることです。これは、クラス内の友人関係でも同じことが言えると思います。

新入生の皆さんは、難関を潜り抜けて入学されたことだと思います。受験を終えて新たな出発点に立ったわけですが、15-20歳というのは精神的に最も発達する時期です。察に入れば自分自身を律する心が求められます。こ

の5年間でどのように過ごすかで、これからの生き方が大きく左右されます。2-5年生の皆さんも、もう一度このことを良く鑑み、高専に入学して決心したことを思い直して、目標を定めてください。

さて、「頭が良い」と思わせることは何でしょうか？難しい数学や物理の問題が解けるようになることでしょうか？2月に北京で行われた冬季オリンピックで、私は羽生結弦選手が競技終了後に開いた会見での言葉が印象に残っています。羽生選手はアイスリンクの窪みに足をとられてショートプログラムでは8位からスタートしました。前日の練習で足を捻挫してしまい、思うように滑れなかったことも述べていました。それでも、あきらめずに4回転半アクセルに挑戦し、彼の「挑戦」という気持ちに感動を覚えた人も多いでしょう。会見の中で、優勝したネイサンチェン選手を称えただけでなく、「このアイスリンクという最高の舞台を作ってくれたスタッフの人に感謝します」という言葉を聞いて、超一流の選手であることを感じました。彼は世界的にも有名で人気のある選手ですが、アイスリンクを作った人達のことを気遣い、あの言葉が出たのだと思います。頭が良い人というのは、村度ではなく、相手の気持ちが分かる人だと思

います。授業中でも、教員が伝えたい内容を見透かすように、鋭い質問をしてくる学生がいます。そうした学生は、定期試験でも教員が伝えたい気持ちを捉え、キーポイントとなる内容を掴んでいることを感じます。試験の点数・成績は、この普段の学問に向かう姿勢の結果に過ぎないのかもしれませんが。



新年度を迎えて

物質工学科長
竹口昌之

昨年度に引き続き学科長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

本年度は新たな学生として41名の新入生と第3学年にモンゴル国から留学生1名を迎えました。教員については、山根説子教員が4月よりペンシルベニア州立大学に在外研究員として派遣されており、本年度は10名で学科を運営します。

私は本年度より物質工学科の就職担当として、エントリーシート作成に苦勞している学生と接しております。多くのエントリーシートは志望動機、自己PR、学生時代に力を入れたことの3点が必須事項となっています。コロナ禍で学内外の活動が制限され、アピールポイントが喪失したと考える学生も多くおります。このような状況もあり、エントリーシートには学生実験や学寮など学校

今年度入学した皆さんは、5-6月ごろにはクラスに慣れると同時に、自分とは違う考えの人が沢山いることも感じるでしょう。まず、色々な考えをもつ人を受け入れ、気持ちの良いクラス作りを心掛け、「超一流」の学生になって欲しいと思います。

生活での体験を記載する学生も多くおります。しかし、その記載内容には抽象的な言葉が並び、企業側の採用担当者の心をつかむことができるのか心配になるものもあります。私が学生に、そこではどんな経験したの？どんな能力が身についたの？その能力は今後役に立ちそう？と間髪入れずに尋ねると、私がグイグイ引き込まれる体験談を学生から聞くことができます。学生が日々の経験を通して成長していることを理解するとともに、足りなかったことは表現力であることを理解します。華々しい経験でなくても、自分自身の意志で判断し、試行錯誤しながら得た体験談を論理的に示すことで採用担当者も引き込まれます。コロナ禍で今後の活動も制限される可能性があるかもしれませんが、自分の意志でチャレンジできることは無限にあります。学内にも課題研究、学外実習、特別物質工学実習、単位修得が可能な技能審査があります。学生の皆さんには積極的なチャレンジとそれを説明する表現力を持つことを期待しております。

最後に、本年度も保護者の皆様のご協力を頂きながらコロナ禍での学園生活を築いていく所存です。何卒よろしくお願い致します。



世の期待にこたえるために

教養科長
小村宏史

今年度あらたに教養科長を務めることとなりました、小村宏史と申します。どうぞよろしくお願い致します。

教養科教員は、一般教養科目の授業担当をするほか、本校1、2年生の学生指導（クラス運営）を行うのが主な職務です。本年度は寮監を含む4名の新任教員を迎えました。気持ちも新たに学生諸君の指導にあたってまいります。

さて、ここをお読みの方のなかには、専門教育をはやくうけられるのが高専のメリットであり、教養科目などは無用の長物、そうお考えの向きもあるかもしれません。なるほど、めまぐるしく社会状況が変化する現代においては、即効性のある学問が求められる面は確かにあります。その意味で、教養は直接社会の役に立たないという見方は誤っていないかもしれません。

しかし、ここ数年のコロナ禍を思いだしていただき

い。ウィルス感染への直接対策となりうるのは、医学や薬学にもとづくワクチンや治療薬の開発でしょう。ですが、当然ながら多くの人にはそれに直接かかわれるだけの専門知識を有していません。不安と戦いながら、日々、社会生活を営んでいかなければなりません。そこで意味を持つのが教養なのです。

我々人類は、これまでいろいろな時代に、いろいろな地域で、さまざまな問題に直面し、克服しようとしてきました。その過程で、差別や偏見などに基づく社会生活上の失敗も繰り返してきました。そうした人類の姿は、現在の、そして未来の我々のありかたを考える糧となります。多様な社会を俯瞰的に理解し、価値観・想像力を養うことに通ずる、倫理、哲学、歴史、文学、語学、芸術などの幅広い教養力が求められるということです。もちろん、理数系科目で培われる論理的思考力も重要です。

教養とは我々が生きていく「世界」を把握するためのツールなのです。学生諸君が「世の期待」にこたえられる技術者となるために、教養科教員一同、指導にあたっていく所存です。よろしく申し上げます。

令和4年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
令和4年3月31日	中村 聡	定年退職	校長
	小林 隆志	定年退職	教授（機械工学科）
	松本 祐子	辞職	准教授（制御情報工学科）
令和4年4月1日	榎本 翔太	助教（教養科）に配置換	鳥羽商船高等専門学校 助教（一般教育科）
	矢入 聡	准教授（制御情報工学科）に配置換	仙台高等専門学校 准教授（総合工学科）
	岡田 哲男	校長に採用	東京工業大学副学長
	川口 喜弘	講師（教養科）に採用	
	前田 隆子	助教（教養科）に採用	
	太田 匡洋	助教（教養科）に採用	
	金子 裕哉	助教（制御情報工学科）に採用	
令和4年5月31日	中村 聡	辞職	助教（教養科）



令和4年度 校務分掌

Table with columns: 区分, 氏名, 職名, 担当事務, M, E, D, S, C, L. Lists various administrative roles and staff members across different departments.

Table with columns: 区分, 氏名, 職名, 担当事務, M, E, D, S, C, L. Lists administrative roles and staff members, including a summary row for '科別人数計'.

Table with columns: 学科・学級, 担任氏名, 職名, 副担任氏名, 職名, M, E, D, S, C, L. Lists faculty members and their assignments by department and grade.

※◎は学年代表

Table with columns: 教科主任, 氏名, 職名, 備考, M, E, D, S, C, L. Lists subject coordinators and their details.

令和4年度 クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)				
陸上競技部	☆渡邊 志保美	金 顯 凡	山崎 悟 史		
ソフトテニス部	☆平田 陽一郎	佐藤 崇 徳			
バレーボール部	☆大庭 勝 久	小林 美 学	小田 昇 平		
バスケットボール部	☆鈴木 久 博	鈴木 尚 人	遠山 和 之		
野 球 部	☆金子 裕 哉	香川 真 人	高矢 昌 紀	太田 匡 洋	
卓 球 部	☆芳賀 多美子	高野 明 夫	黒澤 恵 光		
柔 道 部	☆端川 朝 典				
剣 道 部	☆新井 貴 司	澤井 洋			
サ ッ カ ー 部	☆山之内 亘	前田 篤 志	駒 佳 明		
ラ グ ビ ー 部	☆井上 聡	設楽 恭 平			
体 操 部	☆佐藤 誠	前田 隆 子			
水 泳 部	☆大澤 友 克	新富 雅 仁	嶋 直 樹		
合 気 道 部	☆眞鍋 保 彦	横山 直 幸			
テ ニ ス 部	☆小村 元 憲	川上 誠	竹口 昌 之		
ス キ ー 部	☆小谷 進	伊藤 拓 哉			
ハンドボール部	☆榎本 翔 太	野毛 悟			
弓 道 部	☆青山 陽 子	小村 宏 史			
空 手 道 部	☆大久保 進 也	矢入 聡	(端川 朝 典)		
バドミントン部	☆古川 一 実	藤尾 三紀夫	牛丸 真 司		
トライアスロン部	☆三谷 祐一朗	後藤 孝 信			
吹 奏 楽 部	☆藁科 知之	山中 仁	住吉 光 介		
囲碁将棋部	☆鈴木 静 男				
ロボコン部	☆青木 悠 祐	熊谷 雅 美	鄭 萬 溶		
天 文 部	☆大川 政 志	小林 美恵子			
同好会(理工系)	☆村松久巳(機)	☆鈴木康人(プ)	☆鈴木正樹(数)	☆大津孝佳(知)	
同好会(芸術系)	☆芳野恭士(合)	(村上真理)(合)	☆宮下真信(軽)	☆西村賢治(大)	☆成田智子(茶)
	☆村上真理(E)	☆大沼 巧(ア)			

令和4年4月20日現在

同好会(理工系): 機械工学・プロコン・数理・知財

同好会(芸術系): 合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS・アカペラ

着 任 挨 拶



25年ぶりの静岡県民

制御情報工学科
矢 入 聡

制御情報工学科に着任した矢入です。静岡市清水区の出身です。13年間仙台高専の名取キャンパスにいましたが、そろそろ地元に戻って静岡のために働きたいという思いからこちらに移って来ました。富士山も、当時はそんなに素晴らしいとは感じていなかった気がします。一度離れたことで、改めて静岡の良さを感じています。

仙台高専着任時、同様に挨拶の文章を書いた際には、文字数制限は特にないとのこと、色々と書くうちにかなり長くなってしまい後で反省しました。今回はちゃんと所定の文字数に収めるようにします。

仙台高専では着任2年目の年度末に東日本大震災を経験しました。その時は学会の最終日で東京にいたのですが、帰る予定だった新幹線が止まり、新潟経由のバスで3日後に自宅にたどり着きました。着いた日に電気は

ちょうど復旧したものの、水道は1週間、ガスに至っては1ヶ月してから使えるようになりました。自宅も職場も海から離れていたのは幸いでしたが、しばらくは両方の片付けに追われました。災害への備えは今後も大事になると思います。

専門は音響、という幅が広いのですが、特に人が聞こえる音（可聴音）を対象としています。人間は音が聞こえたとき、その音がどこから聞こえるのか把握することができ、これを音像定位と呼びます。人間には2つの耳があって、両耳に届く音の特性が左右でどう違うかを主に利用しているとされています。このことから、両耳に届く音の特性を信号処理で変化させて、本当はヘッドホンから鳴っているのに例えば右前方から鳴っているように感じさせることができます。

私が音響に興味を持ったのは、良い音で音楽を聴いたことがきっかけでした。研究に関連してヘッドホンは色々なものを持っていますし、最大12本のスピーカーから音を同時に再生できるシステムなども構築可能です。百聞は一聴に如かず。興味のある方は気軽に教員室を訪ねてください。



目指す姿

制御情報工学科
金 子 裕 哉

2022年4月より沼津高専制御情報工学科に助教として着任しました金子です。よろしくお願いたします。

私はかつて電子制御工学科の故・長澤正氏先生のもとで専攻科生をしていたこともある、沼津高専の卒業生です。その頃から無線通信の分野で研究を続け、この3月までは企業の研究所に勤めておりましたがこの度沼津高専に戻ってまいりました。学校という環境へのブランクがありますが、学生だった頃にどんな講義が印象に残ったか、どんな悩みがあったかを思い出して活かしていきたいと思っています。

令和4年度は制御情報工学科と電気電子工学科5年生合同の選択科目である現代制御工学と、制御情報工学科4年生の数値解析という科目を担当します。高学年の講義であり使用する物理や数学、プログラミング技術のレベルも低学年時に比べて高くなるのですが、企業に勤めていたときに実際に役に立った経験などを紹介したりして学生のモチベーションを上げていきたいです。またほかに校務として、制御情報工学科1年生の副担任や野球

部の顧問を務めます。卒業した後で思い返したときに学生生活が楽しかったと思ってもらえるように、学生のサポートをしていきたいです。

最近では次々に出てくる新しい、高度な技術を素早く適用させていくことが益々求められるようになり、学校を出た後も自ら学び続けることの重要性が増しています。単純な知識や単独の技能だけでなく、問題が何なのかを整理し、何をすればよいのか、そのためには何を学び、用意する必要があるのか、そしていつまでに達成しなければならないのか、そういったことを自ら考えて動けるようになるための能力が身につくような教育を行いたいと思っています。私自身がまだまだ学ぶことが多い身ですが、日々研鑽を積んで参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。





生徒から学生へ

教養科 寮監
川口喜弘

本年4月1日付けで学生寮の寮監として着任しました川口喜弘と申します。前職は県立高校の保健体育の教員です。静岡県西部から始まり東部、中部、最後は伊豆地区の学校に赴任し、夜間定時制、実業高校や進学校等の多種多様な校種と生徒と携わってきました。校長先生の学校説明の中で、「生徒ではなく学生ですから」という言葉がすごく印象的でした。その言葉通り高校生と年代は変わらなくとも、自治の精神の下、自主自立をもって勉学・部活動・寮生活や寮行事に励んでいる姿は、学生としての自覚を持って行動しているなど感じます。

1か月が経過し、寮生会を中心とした活動には目を見張るものがあります。開寮式から始まり入寮する際の車の誘導や各種の手続きや寮則の説明、寮祭の企画から実

施までの細やかなスケジュールリング、また7つある棟の個性が合間って、寮生自身が主役となっている姿は、頼もしく輝いています。私も4年間寮生活を送ってきました。上級生は恐れ多く簡単に会話などできない存在でしたが、部屋にふらっと入ってきては様子を見てくれたり、時に挨拶・言葉遣い・寮内の行動でお叱りも受けたりしながら、生徒から学生そして大人への道筋を教えてくださいただいたと懐かしさと共に今でも感謝しています。

寮監としての使命は、1に寮生の健康(命)と財産(安全)を守ること。2に寮生活と教育環境の向上。3に利他の精神に伴う人間力の養成です。細かいことも見逃さず徹底することを継続し、一つひとつの言動を見守りながら、全身全霊でサポートすることにより、社会で有為となる信用を得て、信頼され活躍できる人財の育成に寄与していきたいと思えます。まだまだ新米ではありますが、これまで築き上げてきた沼津高専学生寮の歴史や伝統を継承しつつ、さらなる発展に尽力したいと思いますので、学校関係者の方々並びに保護者の皆様方のご支援助ご協力をよろしく願いいたします。



沼津高専で哲学に携わるといふこと

教養科
太田匡洋

本年度より教養科の哲学の教員として着任いたしました、太田匡洋と申します。出身は京都府で、京都大学文学部および大学院文学研究科で西洋近世哲学史を学び、早稲田大学のポスドクを経て、本校に着任する運びとなりました。

この沼津高専のある沼津という土地は、哲学とも縁の深い場所として知られています。もともと、日本語の「哲学」という言葉を作ったのは、西周という明治期の学者です。この西周が明治初期にphilosophyやscienceの訳語として「哲学」や「科学」(諸説あります)などの言葉を発案したと言われていました。これはある方に教えていただいた話ですが、上記のような活動のための構想が練られていたのは、江戸時代の末期に西周がオランダ留学から帰国した後、沼津の地で兵学校の初代校長を務めていた折ではないか、というのが、西周の活動歴に関する見立ての一つとして知られているそうです。

さて、日本で西周が西洋の学問を輸入していた頃、当時の哲学の中心地であったドイツでも、哲学の営みが岐路に立たされていました。大学制度が定着し、自然科学が隆盛を誇るなかで、古代ギリシャ以来の伝統をもつ(と自称する)「哲学」という分野もまた、その存在価値を問い直されることとなります。そこである哲学者たちは、

自分達の存在意義をまっとうすべく、同時代の自然科学者との積極的な協働にうってでました。その試みは功を奏し、それらの科学者の中から、今日も教科書に載っている大御所たちが輩出されることとなりました。私の狭義の研究分野は、この19世紀から20世紀の初頭にかけてのドイツの哲学です。このような、哲学に縁の深い沼津の地で、自然科学の牙城に身を置きつつ、哲学に関する仕事をさせていただけることは、私にとってまたとない光栄であり、また貴重な経験であると感じております。今後ともどうかご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。





工業高専で1ヶ月 過ごして

教養科 数学
榎本 翔太

令和4年4月1日付けで鳥羽商船高等専門学校より異動となりました榎本翔太と申します。今年度は電子制御工学科2年の担任を任されることになりました。商船高専から工業高専へ異動し、学習内容や将来の職業等の違いを着任1ヶ月で実感しているところですが、就職への意欲や知的好奇心の高さは高専生として共通していることだと感じています。一方で商船高専のように「船乗りになりたい。」という明確な夢を持たずに理系だから、就職率が良いからと工業高専に来た学生も散見され、将来の夢や目標がないことに焦りを感じている学生がいることも分かりました。高専は5年の長期教育を経て専門性を持って卒業していくことが特徴ですが、多くの勉強や体験に触れながら自分の可能性ややる気と相談し、やり

たいことや出来ることを明らかにしていった貰えればなと思います。

数学について少し思い出話をしたいと思います。大学3年生頃でその年度末頃に初めて研究集会の聴講に行きました。そこでは渦を含む完全流体の数値解析のお話がされていたと思います。集会後の帰路を当時の指導教員と歩いていると東京大学の先生とお話する機会を得ることが出来ました。そのとき、その先生は私にこう言いました。「数学は今自分が何をやっているか分からなくなるものだ。だから何をやりたいのか何をやっているのかを確認しながらやらなければいけない。」その先生は世界的にも著名な方でそんな大先生が「分からなくなる。」と言ったことに妙な衝撃を受けたことを今でも覚えています。このお話から授業では「落ち着いて状況を整理すること」と「何を目標としているのか」を明確にすることを大事にしています。数学に限らず他の勉強でも人生でも現状の整理と目標を考えることは非常に大事だと思います。数学を通して数学の知識だけでなく、人生に役立つコツのようなものを得てくれれば嬉しいなと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



Think Globally, Act Locally.

教養科 英語
前田 隆子

この春、教養科に着任致しました前田隆子と申します。長らく、東京、神奈川、千葉の大学で英語を教えてきましたが、初めての静岡県、そして初めての高専ということで新しい環境を楽しんでいます。

研究テーマは英語教育ですが、中でも小学校の英語教育を専門に研究しています。研究を始めた当初はまだ一部の私立小学校でしか英語は教えられていませんでしたが、現在は全国の小学校3年生から英語教育がスタートしています。日本では原則学級担任が英語を教えていますので、現場では苦勞されている先生方も多くいらっしゃいます。そこで前任校では英語の教員研修も担当しました。ほかにも協同学習や英語の音読劇などにも興味があり、沼津高専でも英語の授業内に取り入れて、実践研究したいと考えています。

さて、沼津高専で英語を教え始めて1か月ほど経ちました。学生たちはおおむね礼儀正しく、授業中の反応もよく、私自身も楽しく授業をしています。ただ、英語に苦手意識を持つ学生も少なからずいるようです。そのような学生に「将来、モノづくりをして世界に発信したいから、そのためのツールの一つとして英語を手に入れよう！」とってもらえるように、授業に工夫を凝らしたいと思います。

表題の“Think Globally, Act Locally. (考えるときは地球規模で、行動するときは身近なところから)”は、私が大学院を修了後勤務した外務省の外郭団体で出会った言葉です。私の座右の銘でもあり、学生たちに折に触れて伝えてきた言葉でもあります。現代社会は、地球規模で解決しなければならない課題にあふれています。沼津高専の学生が、そのような諸問題の解決に沼津において果敢に挑戦し、世界に発信できるように寄り添っていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



新入生から (入学にあたり)

今年1年でやりたいこと

電子制御工学科1年
大澤 宗太郎

私は高専に入学し、とても自由で合理的な校風であると感じました。授業が終わると即下校できたり、学生会が独立していたりと、今まで私が学校というものに抱いてきた非道徳的なイメージを覆されました。

そんな高専で、この1年は、とりあえず基礎的な勉強を固めて先に備えたいと思います。私は吹奏楽部でサクソフォンを吹いており、音楽が大好きです。音楽活動と平行して、中3の時にサクソフォンに向けたオリジナルのパーツを作りました。サクソフォンに対して明確な効果を認めることができましたが、手作りだったので精度が上げられず、納得のいくものにはなりません。そこで、高専で工学技術について学びこれを完成させ、特許を取得したい、というのも一つの野望です。そのために、物

作りの基礎となる数学と物理をとにかく勉強したいです。

楽器だけではなく、演奏家の努力とは関係ない部分をカバーできる技術も開発したいです。音の響きは楽器の素材やホールの設計など、演奏に直接関わるものの、演奏家にはどうすることもできない様々な要素の組み合わせで変化します。それぞれについて実現可能か、音響工学の面から探求したいです。そして、「音」という物理的な視点から、「音楽」に迫りたいと思っています。

そのために、高専では人脈をつくる事にも力を入れたいと思っています。自分からたくさんの先生方や先輩方、同学年の仲間と関わりに行くことで、頼れる人を増やしたいです。特に、他の学科の人たちとのつながりはできにくいので、自分から動くことは大事だと思っています。それこそがものづくりに大切なことです。

何度も言われていることではありますが、上記二つを達成するためにも、能動的な行動が求められます。自分の苦手とするところでもあるので、これを強化するためにも、自分のやりたいことに向けて、精一杯頑張っていきたいと思います。

高専でしか味わえないこと

制御情報工学科1年
楠 和徳

高専に入学してから1か月がたちました。1か月間の間で高専に入ってから感じたことを書いていきたいと思っています。

まず初めに学校生活についてです。授業は90分で1日3~4コマで構成されています。90分と聞いて長いと思う人も多いと思います。私も初めてそのことを聞いたときはとても長そうだと感じました。しかし、実際は2コマ終わった後ご飯になってしまうため、受ける教科が少ない分お昼までが早いように感じられます。また、授業の内容は数学や国語などの一般科目から工学基礎などの専門的な科目が一年生からあります。専門的な科目は自分が気になっていた分野の場合はとても面白く感じられ

ます。

次に寮生活についてです。私は入学した当初は寮生活を不安に思っていました。しかし、入ってみると、とても過ごしやすい場所でした。例えば食事についてです。食事は美味しくて温かい食事が日替わりで出ます。量もたくさんあるので満足できる食事ができます。他にはWi-Fiについてですが、少なくとも動画を視聴する分には十分な強さです。また、寮ではいつも近くに友達がいるので入学してからすぐでも仲良くなれます。また、寮に入ってからすぐに階長の先輩にお世話になります。その時に先輩とのつながりができます。

最後に、私は1か月間高専で過ごしてすでに集団生活や、自分で起きること、洗濯など将来必要になることを多く学ぶことができました。私はこの1か月はあっという間に過ぎてしまったように感じます。しかし、一番成長ができた1か月間だとも思います。これから高専の同級生や先輩、先生からたくさんの影響を受けて、面白いことを学んでいきたいです。

高専に入学して

物質工学科1年
勝 又 静里夏

私たちが沼津高専に入学して1か月がたちました。入学してすぐは少し他人行儀だったクラスメイトとも、う

ちとけて話せるようになってきたと思います。

この1か月はまだ慣れないことも多く、大変だったけれど、とても充実していました。日々の授業は、中学校の50分授業から約2倍の90分授業になりました。この90分を長いと感じる教科、短いと感じる教科は人それぞれだと思いますが、毎時間内容の濃い授業を受けることができます。今はまだそれほど難しいことはやっていないため、授業についていけていますが、そのうち徐々

に難しくなっていくでしょう。予習、復習をしっかりとし、毎日の積み重ねを大事にしていきたいと思います。そして、寮生活というのが私の中で大きいです。はじめの数日は緊張していました。しかし、今はだいぶ慣れてきました。6月には中間テストがあるので、学習時間に集中して勉強にとりくみたいと思います。また、上級生や同級生と積極的にコミュニケーションをとっていききたいです。

このクラスの仲間とはこの先の5年間の高専生活を共

にします。実験・実習で協力し合ったり、わからないことを教えてもらったり休み時間や放課後に楽しく話したりいろいろな面で支え合い、助けあっていこうでしょう。その中で得るものは、かけがえのないものになると思います。普通高校ではなく高専を選び、そして入学した私たちは、自分たちの意志と偶然が重なって出会いました。そんな41人の仲間と、それぞれが自らの将来を見据えながら、楽しく頑張っていきたいと思います。

留学生から

静岡に戻ってきました。

物質工学科3年
ムンフ オド サイン オチル

皆さん、初めまして。モンゴルから来たムンフ オド サイン オチルです。サイナーと申します。私は2018年10月、高校生生の時に、日本とモンゴルの交流会で静岡県に7日間旅行したことがあります。その時に、私は日本をととても気に入って、日本に留学すると良いのではないかと思い始めました。

帰国した後、留学するいろいろな方法を探し、2020年に受験して、2021年に再来日して1年間新宿にある日本語教育センターで日本語を勉強しました。平仮名しか知らなかった私にとって、1年間に日本語を上級まで学ぶことは無理だと思っていたのですが、日本語学校の先生方は教え方がとても上手で、学生全員が話せるようになりました。

日本語学校で勉強して8か月ぐらい経ったある日、私が行く高専が決まりました。その時、私はとても緊張していました。なぜかということ、私が3年間暮らす所はどこになるのかということは大事だからです。そして、先生に「サイナーさんは、沼津高専に決まりました。」と言われました。最初はどこの高専か分からなかったのですが、調べてみたところ、とても驚きました。なぜなら、前に行ったことがある静岡にもう一度行くことになったからです。私はそれを運命と感じて、とても幸せな気持ちになりました。沼津高専はどんな高専か早く知りたかったので、冬休みに高専に来てみたこともあります。

ようやく、今年の4月になって、高専に入学しました。私の将来にやりたいことは化学工学ですので、私は物質工学科3年のクラスに入りました。高専の先生たちも、クラスメートも、先輩たちもとても優しく、今まで何か困ったことがあればいつも手伝ってもらっており、本当に感謝しています。これから、3年間できるだけ頑張ります。よろしくお祈りします。

寮生会活動について

今年度の抱負

制御情報工学科4年 寮長
武 柚 希

令和4年度寮長を務めさせて頂いている制御情報工学科4年の武柚希です。

今年度は、405名の学生が寮で生活しています。そして、全寮生の約3分の1にあたる130名が寮生会役員として活動してくれています。寮生会役員は、円滑な寮運営を行うために、点呼や一般寮生への連絡、行事の運営などの仕事を日々行っています。一昨年度コロナウイルス感染症が流行してから、学生寮には様々な制限が設けら

れ、寮祭や階のパーティーなどのイベントも中止あるいは、規模が縮小されました。寮生同士が関わる機会が減り、一般寮生にとって、役員はただ指導するだけの存在になってしまいました。そんな中、今年度はコロナ対策をした上で5月15、16日に1年生の保護者を招いて寮祭を行うことができました。先生方の助けを借りながらではありますが、前日祭のステージ設営、金券の管理、交通整理まで、役員を中心としたスタッフが自分たちで行い、無事成功させることができました。役員はみなボランティアですが、自分の時間を犠牲にして本当によく頑張っていると思います。これからも、寮生同士の交流の場を積極的に設け、一般寮生にとって役員を身近な存在に、頼れる存在にしていきたいです。

今年度の最後に、寮生全員に寮に入って良かったと思ってもらえるよう、役員一丸となって全力を尽くして

参りたいと思います。保護者の皆様、教員の皆様、寮務係の職員の皆様、日ごろより寮生会にご協力頂きまして

本当にありがとうございます。これからも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

教育後援会から

教育後援会の役割

教育後援会会長 石井 征

若葉のフレッシュな香りに伸びやかな気持ちになる季節となりました。

新入生の皆様、そして保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。コロナ禍での受験勉強、入学準備等、様々な気苦労があったことをお察しいたします。今年度も制限を受けつつ、新しい生活様式の実践例等を踏まえた、感染予防を徹底し、感染拡大の防止に努めなくてはなりません。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、教育後援会とはどのような組織なのか？文字通り、沼津高専学生の教育・生活に関する事柄に対し、バックアップ・応援・支援をする組織です。組織は大きく本部・支部（三島・沼津・富士・静岡・浜松）・部会（教育・学生・寮生）に分かれております。各支部会では学

校の担当主事（先生）による校務報告があり、学生会活動・寮生活・研究活動等について直接話を聞く良い機会となります。また、保護者の不安や疑問についても、活発な質疑応答や意見交換ができ、校長先生・担当主事と共に、解決の道と一緒に探ることができます。各部会は支部会にて選出された部会役員と学校の担当主事にて部会が開催され、学生の生活環境や教育環境を整えることを目的として活動しています。この教育後援会は保護者全員の協力により、より大きな「力」を発揮できます。是非、皆様の支部会への出席と役員選出時のご協力をお願いいたします。

今年度も県内はもとより、県外からも多くの仲間を迎えることができました。大きな夢を持って入学された新入生の皆様、及び学生生活の中で夢を膨らませている在校生の皆様が、希望と自信を持って社会に力強く羽ばたいていくことを願っております。私たち教育後援会は最大限の学生支援をし、未来を担う技術者の応援をしましょう。

三つのポリシー

沼津高専の本科・専攻科では、以下に掲げる三つのポリシーに従って、教育活動を実践する。

このポリシーを基にして、教育の改革・改善に向けた検討を進める。

ディプロマ・ポリシーは、卒業認定の方針である。

カリキュラム・ポリシーは、教育課程編成・実施の方針である。

アドミッション・ポリシーは、入学者の受入れの方針である。

本科

【ディプロマ・ポリシー】

全課程を修了して167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術に関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力、及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力、及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。

【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（社会）に関する科目で国立高等専門学校モデルコアカリキュラムの規定する到達レベル（以下「Level」という。）Level 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学及び自然科学（物理・化学）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学（国語）に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（英語）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。

【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、及び学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。

1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。（知識・技能）
2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。（主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）
3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。（思考力・判断力・表現力等の能力）
4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。（思考力・判断力・表現力等の能力）

専攻科

【ディプロマ・ポリシー】

以下の能力を身につけ、専攻科に2年以上在学し、所定の単位修得条件の下で合計62単位以上を修得した学生の修了を認定する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
 - (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。
 - (A-2) 「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
 - (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
 - (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応

用することができる能力。

- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。
 (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。

D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力

- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。
 (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。

E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。
 (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目によって編成する。
2. 一般科目を必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）に分類し、必修8単位のほか、選択2単位以上を修得する。
3. コース専門科目は選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）のみとし、所属コースのコース専門科目を10単位以上修得する。
4. 専門共通科目を必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）に分類し、必修2単位のほか、選択6単位以上を修得する。
5. 専門展開科目を必修科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目に分類し、必修24単位のほか、選択10単位以上を修得する。
6. 設計・システム系、情報論理系、材料・バイオ系、力学系、及び社会技術系の5科目群系に科目を分類した場合、合計6科目以上、各群系から1科目以上を修得する。
7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を1科目以上修得する。

上記7に関し、各能力と授業科目とは以下のように対応する。

A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（人文社会科学系）、コース専門科目（環境エネルギー工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 (A-2) 「工学倫理」及び「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（工学倫理）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門共通科目（知的財産）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力

- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目（数学、自然科学系）、コース専門科目（新機能材料工学系）、専門展開科目（選択）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力

- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、選択科目）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目（選択）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目（語学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目（学外実習、実践工学演習、専攻科実験）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

【コース別カリキュラム・ポリシー】

コース専門科目は、各コースにおいて下記の方針で編成され、実施される。

- (1) 環境エネルギー工学コース
機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、A-1、A-2、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (2) 新機能材料工学コース
機械工学、電気電子工学及び応用物質工学分野を支える基盤材料として、金属、セラミックス・炭素材料、高分子、生物材料の構造や物性、材料設計作成法について包括的に学修し、B-1、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- (3) 医療福祉機器開発工学コース
機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、A-2、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、学力及び経験を有する者を受け入れる。

1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。
2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。
3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。
これらをこれまでの学習成果、自己申告書、推薦書、試験、面接などによって確認する。

お知らせ

令和4年度 沼津高専一日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり一日体験入学を実施します。

本校の一日体験入学は、中学生その他の参加者に、沼津高専の興味のある学科や施設などを自分の目で自由に見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学の意味を固めていただくことを目的としてきました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

本年度一日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮見学、学生会企画及びクラブ紹介、学内施設紹介などを予定しています。また、中学生及び保護者の方に好評を得ております進学説明会も実施します。この一日体験入学によって、毎年多数の中学生が本校を知り、入学を志望、決意しています。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いいたします。

なお、本年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、参加できる時間帯を居住地により分けて開催します。

午前の部（9：30～12：30）静岡県東部地域（富士・富士宮市除く）在住の方

午後の部（13：00～16：00）静岡県富士・富士宮市、中部、西部地域及び静岡県外在住の方

一日体験入学

- 日 時 令和4年7月24日(日) 午前の部 9：30～12：30
午後の部 13：00～16：00
- 対 象 午前の部：静岡県東部地域（富士・富士宮市除く）在住の方
午後の部：静岡県富士・富士宮市、中部、西部地域及び静岡県外在住の方
- 場 所 沼津工業高等専門学校
- 実施内容
(1) 進学説明会 (2) 各学科・専攻科紹介 (3) 学内施設紹介
(4) 学生会企画及びクラブ紹介 (5) 学生寮見学 (6) その他
- 参加者へのお願い
(1) 当日、体調のすぐれない方は参加をお控えください。
(2) ご来場時にはマスク着用へのご協力をお願いします。
(3) 適宜、校内設置の手指消毒用のアルコール消毒液をご利用ください。
- 一日体験入学ホームページアドレス
https://www.numazu-ct.ac.jp/admission/opencampus/trial_enrollment

行事予定表

令和4年

8月

- 1日(月) 専攻科前期試験
(7月28日から8月3日まで)
4日(木) 専攻科夏季休業 (9月21日まで)
5日(金) 本科前期末試験 (11日まで)
12日(金) 本科夏季休業 (9月25日まで)

9月

- 20日(火) 1～4年保護者懇談会 (22日まで)
22日(木) 専攻科1年生学外実習事前研修会
26日(月) 答案返却日
27日(火) 本科後期授業開始

10月

- 3日(月) 専攻科後期授業開始
12日(水) 体育祭・学生総会
15日(土) 全国高専プログラミングコンテスト
(16日まで)
16日(日) 中学生のための体験授業
23日(日) 東海北陸地区ロボコン大会
26日(水) 文化講演会
28日(金) 高専祭準備
29日(土) 高専祭 (30日まで)
31日(月) 高専祭片付け

11月

- 4日(金) 授業参観・学科説明会 (18日まで)
5日(土) 東海北陸地区英語プレコン
12日(土) 編入学試験
13日(日) 東海地区高専体育大会
22日(火) 後期中間試験 (28日まで)
27日(日) 高専ロボコン全国大会
28日(月) テクノフォーラム
29日(火) 専攻科1年生学外実習中間報告会

12月

- 9日(金) 3年インターンシップガイダンス
10日(土) 3年インターンシップ企業説明会
13日(火) 4年キャリア研修 (16日まで)
15日(木) 1・2年TOEIC Bridge IP
3年CBT
16日(金) 1年CBT
2年研修
3年TOEIC L&R IP
23日(金) 短縮授業
26日(月) 冬季休業 (1月4日まで)

令和5年

1月

- 5日(木) 授業再開
14日(土) 推薦入試
21日(土) 専攻科2年生研究発表会

2月

- 2日(木) 5年卒業研究発表会
(該当学科1～4年授業割愛) (3日まで)
7日(火) 専攻科後期試験 (13日まで)
12日(日) 学力入試
13日(月) 学年末試験 (17日まで)
14日(火) 専攻科1年生学外実習最終報告会
21日(火) 答案返却日
24日(金) 終業式

3月

- 1日(水) 本科学年未休業 (31日まで)
3日(金) 4年就職祭
21日(火) 卒業証書・修了証書授与式
22日(水) 専攻科学年未休業 (31日まで)



「沼津高専だより」に関するお問い合わせ
出版委員会 (事務担当：総務係)

Tel : 055 - 926 - 5712 E-Mail : soumu@numazu-ct.ac.jp



沼津高専サテライトオフィス (N-com)

N-comは沼津高専、沼津市や沼津駅の頭文字“N”と、common（共有）、community（共同）、communication（交流）の“com”の組み合わせです。